

広田遺跡ミュージアム館報

第5号

令和3年3月

南種子町広田遺跡ミュージアム

はじめに

今年度は、広田遺跡ミュージアム開館 5 周年の記念の年でした。様々なイベント、企画展を計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大幅な変更を余儀なくされました。

それでも、広田遺跡語り部の会の皆様が中心となり、徹底したコロナ対策のもと、広田遺跡ミュージアムの夜間開放イベント「ヒロウィン・ナイトミュージアム」を開催し、屋外にて 300 名を超える地元の方々が参加しました。

また、鹿児島県歴史・美術センター黎明館が所蔵する「広田遺跡出土品」と九州大学が所蔵する「広田遺跡出土人骨」を借用し、里帰り展である「広田人と貝装飾展」を行い、1,500 名を超える方々に鑑賞いただきました。コロナ禍ではありますが、語り部さんを中心に創意工夫し、ウィズ・コロナの館活動を展開したところです。

本号の第四節に研究報告として、長田忠さん（町文化財保護審議会委員長）が「南種子町のガローヤマ」について、三本の貴重なご意見を寄せておられます。

ガローヤマは、日本中でも種子島しか見られない貴重な民俗神です。ガローヤマは失礼があると烈しくたたとされ、恐れられています。それは、大事にしろということでもあります。ガローの語源は伽藍（ガラン）で、お寺のことです。ガローは平山に多いようです。そのわけは、平山のお寺（善福寺）は広田にありますが、もとは今の平山神社の所にありました。あそこは岡の上ですから、清らかではあるけれども、年寄や膝の痛い人などの参詣は大変です。そこで、かねては屋敷の裏山などに、寺からもらったお札を、立木のそばに立てて、その立木を聖なるガラン神のよりどころとして、拝んだのです。あと、ガローを拝むことは本家筋の家がしましたが、その例として、平山の徳瀬のガローがあります。今、本家跡は土地が崩されていますが、ガローだけはしっかりと残っています。徳瀬のガローは、街道から数分で見られ、しかも参拝ごとに積まれた何百とも知れない真っ白なサンゴ石の小山があるので、町の文化財に指定され、種子島の観光に組み入れたらいかがでしょう。

ガローヤマは、今や長田忠さんなどの文からも分かるように、日本の代表的な森山信仰として歩き出そうとしています。他にも種子島には、南種子町西岸の石エビス群や牧の神、各地の民俗芸能など、素晴らしい宝が満杯です。

最後になりましたが、本館の運営につきまして、多くの皆様方のご支援とご協力をいただいておりますことに、心より感謝いたします。今後とも皆様方のご指導、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

令和 3 年 3 月 30 日

広田遺跡ミュージアム 名誉館長 下野 敏見

目 次

第 1 章 館の概要

第 1 節 館の概要と組織	P1
(1) 館職員数内訳	
(2) 館職員名簿	
(3) 南種子町広田遺跡ミュージアム協議会	
(4) 館職員事務分掌	
第 2 節 利用状況	P2

第 2 章 館の事業

第 1 節 展示	P2 ～ P5
(1) 企画展	
(2) イベント	
第 2 節 教育・普及啓発	P5 ～ P6
(1) 広田遺跡ミュージアム ジュニア学芸員	
(2) たねがしま古代塾	
(3) 学校、一般向け館利用	
(4) 出前講座	
(5) 研修・博物館実習・職場体験等	
第 3 節 管理・運営	P6 ～ P8
(1) コロナウイルス感染拡大防止	
(2) 広田遺跡語り部の会	
(3) 視察・研修	
(4) 広報	
(5) 文化財の保存・管理	
(6) 防火・防犯訓練	
第 4 節 調査・研究	P9 ～ P24
(1) 調査・研究	
(2) 研究報告	
論考 1 南種子町平山地区のガローについて	
広田遺跡ミュージアム運営協議会 会長 長田忠	
論考 2 南種子のガローについて	
広田遺跡ミュージアム運営協議会 会長 長田忠	
論考 3 ガローについて	
広田遺跡ミュージアム運営協議会 会長 長田忠	

第2節 利用状況

(1) 利用者数

年度	利用者数(人)	町内	町外
26	2,429	1,268	1,161
27	11,225	3,064	8,161
28	7,226	1,899	5,327
29	7,520	1,619	5,901
30	6,194	1,231	4,963
令和元	6,176	1,414	4,762

(2) 体験学習利用者数

平成27年度 981名、350,500円

(初級775名 232,500円、中級176名 88,000円、上級30名 30,000円)

平成28年度 805名 340,600円

(初級402名 120,600円、中級366名 183,000円、上級37名 37,000円)

平成29年度 699名 275,100円

(初級442名 132,600円、中級229名 114,500円、上級28名 28,000円)

平成30年度 548名、229,400円

(初級313名 93,900円、中級203名 101,500円、上級31名 31,000円、特設1 3,000円)

令和元年度 503名、227,900円

(初級258名 77,400円、中級193名 96,500円、上級51名 51,000円、特設1 3,000円)

(3) 書籍販売

平成27年度 売り上げ：53,500円

(郷土誌4冊、広田遺跡報告書6冊、南種子の民俗9冊、南種子の民具6冊、南種子の文化財6冊、南種子の文化財21冊)

平成28年度 売り上げ：34,000円

(郷土誌4冊、広田遺跡報告書2冊、南種子の民俗7冊、南種子の民具2冊、南種子の文化財6冊、南種子の文化財18冊)

平成29年度 売り上げ：31,500円

(郷土誌4冊、広田遺跡報告書3冊、南種子の民俗5冊、南種子の民具2冊、南種子の文化財8冊、広田遺跡ミュージアム館報3冊)

平成30年度 売り上げ：41,500円

(郷土誌0冊、広田遺跡報告書6冊、南種子の民俗2冊、南種子の民具2冊、南種子の文化財11冊、広田遺跡ミュージアム館報4冊、南種子の神社仏閣24冊)

令和元年度売り上げ：20,500円

(郷土誌3冊、広田遺跡報告書1冊、南種子の民俗4冊、

南種子の民具0冊、南種子の文化財4冊、広田遺跡遺跡ミュージアム館報1冊、南種子の神社仏閣7冊)

(4) 開館日数

平成27年度 315日

平成28年度 314日

平成29年度 308日

平成30年度 314日

令和元年度 295日

※コロナウイルス感染拡大防止に伴う休館

令和2年3月3日(火)～3月22日(月)、

令和2年4月4日(土)～5月25日(月)

※ロケット打ち上げに伴う臨時休館

令和2年11月29日(日)

※ロケット打ち上げに伴い臨時開館

令和2年11月30日(月)

第2章 館の事業

第1節 展示

(1) 企画展

今年度は、コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、企画展の開催が1回となった。

○企画展：5周年記念事業「広田人と貝装飾～広田遺跡出土品里帰り展」

補助：埋蔵文化財普及啓発事業(国庫補助)

期間：令和2年10月24日～令和2年12月20日

内容：広田遺跡ミュージアム開館5周年を記念し、鹿児島県歴史・美術センター黎明館の広田遺跡出土品及び九州大学総合研究博物館の広田遺跡人骨を借用し企画展を開催し、国史跡広田遺跡の価値を広く周知した。

入館者数：1,526人

(2) イベント

例年実施している GW イベントはコロナ禍で中止となった。

○5周年記念イベント

「ヒロウィン・ナイトミュージアム」

期日：令和2年10月31日（土）

18時00分～22時00分

内容：広田遺跡ミュージアムでは、昨年より夜間の博物館公開を行っている。今年度は、夜間の史跡公園の体験イベント「ヒロウィン・ナイトミュージアム」を開催した。

開館5周年を記念し、広田遺跡語り部の会との共催で行われたこのイベントは、ハロウィンをイメージして実施したもので、コロナ対策として、島内の方々のみを対象に、事前予約により30分間毎に40人の人数制限を行い屋外での開催都市、延べ人数では310名参加した。

当日は、広田遺跡公園をライトアップし、クイズラリーも行い、参加者もスタッフも仮装をし、マスクを着用した。クイズは、広田遺跡にちなんだもので、正解すると、「おかしの家」で語り部さんにお菓子をもらえる仕組みであり、楽しみながら参加者は広田遺跡について学ぶことができた。

また、種子島宇宙芸術祭の参加アーティスト「AKI INOMATA」氏による「進化への考察#1：菊石（アンモナイト）」が遺跡に投影されるなど、参加者は、いつもとは違う神秘的な夜の遺跡公園を体験した。

参加者数：310人

○「広田の瀬風呂焚き&昔の焼き芋体験をしよう！」

講師：広田遺跡語り部の会

日時：令和3年3月7日（日）

9:30～11:30、13:30～15:30

場所：広田遺跡ミュージアム

内容：ジュニア学芸員を対象に、広田遺跡ミュージアムで昔の焼き芋体験、塩作り等を体験した。雨天のため瀬風呂焚きは中止した。

(3) 貸し館事業

○種子島宇宙芸術祭 2020 × AKI INOMATA
「貨幣の記憶」展

主催：種子島宇宙芸術祭実行委員会

日時：令和2年10月29日（木）～11月15日（日）入館者数：832名

○「CURIO CITY TANEGASHIMA」

主催：種子島観光協会、実施自治体：南種子町

日時・場所：令和3年2月21日（日）10:00～15:00 広田遺跡ミュージアム

講師：若林宏保（株式会社電通）

内容：アート思考をとりいれた子供向けのワークショップを開催。

(4) 共催事業

○「黒潮のおくり物」

主催：種子島観光協会

共催：南種子町、広田遺跡ミュージアム

日時・場所：令和3年1月31日（日）

13:00～17:00

広田遺跡ミュージアム・広田海岸

講師：藤枝繁（鹿児島大学 特任教授）、石堂和博、小脇有希乃（広田遺跡ミュージアム学芸員）

内容：種子島観光協会と南種子町との共催で小学生を対象とした体験型教育観光プログラム「黒潮のおくり物」が行われた。この講座は、鹿児島大学の藤枝繁先生、広田遺跡ミュージアムの石堂、小脇学芸員を講師に、ナビゲーターを美川奈穂氏がつとめ、観光庁「誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成・実証事業」の一環で行われたものである。1月17日（日）13時よりリモートで事前学習会を行い、1月31日（日）に広田遺跡ミュージアムで体験講座を実施した。

徹底したコロナ対策のもと実施されたこの講座では、藤枝繁先生も鹿児島大学の研究室からリモートでの講義となった。

参加した子どもたちは、まず、広田海岸で漂着物を拾うプログラムを行ったあと、藤枝先生によるリモート・ワークショップに参加し、漂着物の種類や国籍などを調べ、そこから分かることを考えた。続いて、未来の種子島はこんな島になってほしいという夢をワークシートに書き、理想の種子島に必要な家や建物、施設などを漂着物で製

作した。

自然エネルギーで発電できる島になってほしいと考えた児童は、漂着物で、海中に浮かぶ津波に強い風力発電所をつくるなど、個性的なアイデアにあふれた作品が多数できあがった。子どもたちのつくった「私たちの島」は、広田遺跡ミュージアムの入口に展示した。

また、この講座では、YOUTUBE LIVEなどを活用し、リモートで静岡県や埼玉県の子どもたちも参加した。リモート参加をした子ども達は、「コロナがおさまったら、ぜひ、種子島に行ってみたい。」と声を揃えていた。講座の開催に尽力された種子島大学の小早太さんは、「子どもたちの夢が現実となり、未来の種子島が、すみやすい島となるお手伝いができれば。」と感想を語っている。

第2節 教育・普及啓発

(1) 広田遺跡ミュージアム ジュニア学芸員

ジュニア学芸員は、令和2年度はコロナウィルス感染拡大防止等の観点から、小学校1～6年生までを対象とし実施した。この事業は、種子島の歴史・文化・自然を学んでいただく教育・普及啓発事業である。所定の課程を修了した受講生には、ジュニア学芸員認定証を発行している。

ジュニア学芸員の人数

	小学生	中学生	高校生	合計
平成26年度	19	5	0	24人
平成27年度	21	6	0	27人
平成28年度	28	8	1	37人
平成29年度	27	3	0	30人
平成30年度	53	0	0	53人
令和元年度	50	0	0	50人
令和2年度	80	0	0	80人

令和2年度活動

令和2年度は、コロナウィルス感染拡大防止の観点から、3密を避けるために、活動を午前の部と午後の部の2回に分けて実施

した。

第1回「開校式・広田遺跡ランタンを作ろう！」

日時：令和2年7月5日（日）

9：30～11：30、13：30～15：30

場所：広田遺跡ミュージアム

講師：小山綾、語り部

第2回「広田の海・川で遊ぼう、学ぼう！～海・川の生き物～」(台風10号のため中止)

日時：令和2年9月5日（土）

場所：広田遺跡ミュージアム、広田海岸、広田川

第3回「広田遺跡のナゾをボードにハロウィン風にデザインしよう！」

講師：小山綾、語り部

日時：令和2年10月4日（日）

9：30～11：30、13：30～15：30

場所：広田遺跡ミュージアム

第4回「ヒロウィン・ナイトミュージアム」

※広田遺跡ミュージアム5周年記念特別イベント

※広田遺跡語り部の会との共催

日時：令和2年10月31日（土）

17：30～20：30

場所：広田遺跡公園

第5回「特別展「広田人と貝装飾」学芸員ツアー&古代体験をしよう！」

講師：田淵川サナエ、石堂和博

日時：令和2年12月6日（日）9：30～11：30、13：30～15：30

場所：広田遺跡ミュージアム

第6回「漂流物から学ぼう！体験しよう！」

日時：令和3年2月7日（日）

9：30～11：30、13：30～15：30

講師：石堂和博、語り部

場所：広田遺跡ミュージアム、広田海岸

第7回 閉校式「広田の瀬風呂焚き&昔の焼き芋体験をしよう！」

講師：広田遺跡語り部の会

日時：令和3年3月7日（日）

9：30～11：30、13：30～15：30

場所：広田遺跡ミュージアム

(2) たねがしま古代塾

たねがしま古代塾は、地域の歴史を学び、

文化財等の大切さを知ることが目的として、平成26年度から開講し、以下の活動を行ってきた。この講座の受講生の中から、広田遺跡語り部の会に加入した方もいて、着実に成果をあげている。今年度は、コロナウィルス感染拡大防止の観点から、当初予定より、講座数を減らし実施した。

令和2年度活動

第1回「古の美術品～遺跡から出土した逸品～」

講師：大久保浩二（荃南小学校校長、前鹿児島県埋蔵文化財センター次長）

日時：令和2年7月30日（木）

19：00～20：30

場所：南種子町中央公民館第一会議室

第2回「アート＆アーケオロジーと広田遺跡」

講師：石堂和博（南種子町教育委員会 広田遺跡ミュージアム学芸員）

日時：令和2年8月20日（木）

19：00～20：30

場所：広田遺跡ミュージアム体験学習室

第3回「骨からわかった広田人の謎」

講師：米元史織（九州大学総合研究博物館助教）

日時：令和2年10月15日（木）

17：30～18：30

場所：広田遺跡ミュージアム

第4回「最新研究から種子島人のルーツを探る」

講師：竹中正巳（鹿児島女子短期大学 教授）

日時：令和2年11月14日（土）

13：30～15：30

場所：広田遺跡ミュージアム

（3）学校、一般向け館利用

○学校による館利用

・中平小学校6年 子供24名 大人2名：令和2年10月2日（金）9：00～10：00（語り部案内）

・島間小学校 子供13名 大人1名：令和2年10月23日（金）9：30～10：30（語り部案内）

・池田学園池田小学校 子供48名 大人6

名：令和2年10月30日（金）10：45～11：45（語り部案内）

・伊佐市立南永小学校 子供3名 大人2名：令和2年11月26日（木）10：30～11：30（語り部案内）

・浜松学院高校 39名：令和2年12月4日（金）10：00～10：45（語り部案内）

・種子島高校 100名：令和2年12月22日（火）14：15～16：15（石堂・牛野案内）

○一般向け館利用

日本宇宙少年団南種子町宇宙科学分団 子供56名 大人3名：令和2年7月28日（火）

9：00～12：00（石堂・語り部案内）

南種子町社会科フィールドワーク研修会：令和2年7月31日、（対応石堂、向井良隆）

あおぞら保育園子供18名大人3名：令和2年10月27日（火）10：00～11：00（語り部案内）

西海公民館サロン13名（語り部案内）：令和2年11月18日（水）11：00～12：00

西之運動教室16名：令和2年11月25日（水）9：30～10：30（語り部案内）

平山老人会 21名：令和2年12月8日（火）9：00～10：00（語り部案内）

（4）出前講座

島間小学校総合的な学習の時間（小脇）：令和2年6月18日：島間小学校，参加者数15名

西之フィールドワーク（小脇）：令和2年10月5日：西之小学校：文化財巡り

中平小学校ワークショップ勾玉作り（豊島）：令和2年10月22日（木）：島間自然の家
大川小学校「総合的な学習の時間『西海探検隊』」

（石堂）：令和3年2月5日：大川小学校：古代の製塩

西之小学校児童クラブ「火おこし体験」（小脇）：令和3年2月15日，西之地区研修センター，参加者数16名

（5）研修・博物館実習・職場体験等

南種子町校長研修会 11名 令和2年6月

9日(火) 南種子町社会科部会 7名 令和2年7月31日(金)
南種子町教頭研修会 11名 令和2年10月6日(火)
南種子町小中学校事務職員 8名 令和2年11月26日(木)

第3節 管理・運営

(1) コロナウイルス感染拡大防止

コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年3月3日(火)～3月22日(月)、令和2年4月4日(土)～5月25日(月)の期間に、休館を行った。また、公益財団法人日本博物館協会による「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に準拠し、5月18日に、「広田遺跡ミュージアムにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を作成し、職員研修及び対策を講じ、5月26日(火)より開館した。

(2) 広田遺跡語り部の会

広田遺跡語り部の会は、広田遺跡の発掘に実際に参加したり、発掘に参加した方の子孫であったり、たねがしま古代塾に参加し、島の歴史に興味をもったりした方など、10名で結成した広田遺跡のサポーターである。館がオープンする前の、平成26年12月に結成され、それから3ヶ月間活動をした後、平成27年3月の館オープン以降は、広田遺跡語り部として展示案内などの館活動に参画している。

○ 広田遺跡語り部の会 会員 名簿

会長：長田君應 副会長：向井良隆 監事：長田隆幸・田淵川サナエ 会員：平島強、佐伯圭子、峯山弘子、兵藤幸夫、日高久則
名誉会長：原南海雄 顧問：羽生源志

○ 令和2年度の活動内容

令和2年5月27日(水) 8:30～17:00 館周辺清掃ボランティア、コロナウイルス感染拡大防止のために長期休館した。開館再開にあわせて気持ち良く来館者に利用していただくために、ボランティア作業を実施。また、日高久則さんの加入を受けて、

語り部ガイドの研修を実施した。

令和2年6月19日(金) 9:00～12:00 令和元年度総会、定例会

令和2年7月4日(土) 16:00～20:30 歓送迎会(広田公民館)

令和2年7月8日(水) 8:30～12:00 ボランティア清掃、定例会

令和2年7月17日(金) 8:30～12:00 ボランティア清掃、定例会

令和2年8月11日～ AKI INOMATA 氏種子島宇宙芸術祭でレジデンス。ボランティアで作品制作の手伝い

令和2年8月19日(水) 8:30～12:00 防犯訓練、イベント話し合い、定例会

令和2年8月19日(水) 18:30～21:00 千田作品ツアー(増田飛行場址・小野田レミコン・インフォメーションセンター)

令和2年9月8日(火) 8:30～12:00 台風10号片付け作業

令和2年9月15日(火) 8:30～12:00 定例会、イベント話し合い、研修旅行計画

令和2年10月7日(水) 8:30～12:30 荷捌き室清掃、イベント話し合い、定例会

10月19日～ AKI INOMATA 氏種子島宇宙芸術祭レジデンス対応

令和2年10月30日(金) 18:00～20:00 イベントリハーサル

令和2年10月31日(土) 8:30～22:00 準備作業、イベント、撤収作業

令和2年11月1日(日) 8:30～12:00 撤収作業

令和2年11月17日(火) 8:30～12:00 大掃除、定例会

令和2年12月9日(水) 8:30～12:00 定例会、井戸堀り

令和2年12月9日(水) 18:30～21:00 忘年会(ふるさと)

令和2年12月28日(月) 8:30～12:00 門松作り

令和3年2月2日(火) 8:30～11:30 定例会、門松撤去、井戸堀り

令和3年2月2日(火) 11:30～12:30 住居探し(広田集落)

令和3年3月1日(月) 8:30～12:00 3月定例ボランティア、瀬風呂焚きの準備、

冷水の調査

令和3年3月7日(日) 9:30～11:30、
13:30～15:30 第7回 閉校式「広田
の瀬風呂焚き&昔の焼き芋体験をしよう！」
講師：広田遺跡語り部の会

(3) 視察・研修

○行政視察

令和2年6月18日(木) 13:15～14:00 熊毛支庁総務企画課 7名
令和2年11月10日(火) 13:15～14:00 三島村教育委員会行政視察 7名
令和2年12月18日(金) 14:00～14:40 内閣府・県職員 9名
令和2年12月22日(火) 8:40～10:30 堺市博物館他 5名

○職員研修

・第1回埋蔵文化財担当職員等講習会(リモート)
受講者(石堂・小脇)、令和2年8月26日
・第2回埋蔵文化財担当職員等講習会(リモート)
受講者(石堂・小脇)、令和3年2月3日
・フォトグラメトリ講座
受講者(石堂・小脇)、令和3年3月9日～15日、鉄砲館

(4) 広報

○町広報紙「広田遺跡ミュージアムだより」
毎月連載

○テレビ番組

・番組名：『コズミックフロント☆NEXT 忍たま乱太郎と行こう！にっぽん宇宙旅「鹿児島でロケットにムチュウ!の段」』、メディア:NHK Eテレ、令和2年10月24日(土)放送

○新聞・雑誌

南日本新聞

・2020年11月12日朝刊
「双性、巫女役の10代男性人骨、60年ぶり里帰り」

○インターネット動画配信サイト

メディア:YOUTUBE 南種子町公式チャンネル「種子島みなみたねチャンネル」によ

る情報発信

・動画タイトル「種子島宇宙芸術祭2020 参加作品 AKIINOMATA『貨幣の記憶』広田遺跡ミュージアムにて特別展示。」

・動画タイトル「広田遺跡ミュージアム開館5周年記念企画「広田人と貝装飾～広田遺跡出土品里帰り展」のお知らせ

○広田遺跡語り部の会によるフェイスブック・インスタグラムでの情報発信、ホームページの作成

(5) 文化財の保存・管理

重要文化財の運搬

広田遺跡は、H-ⅡA及びH-ⅡBロケットの警戒区域に設定されているため、文化庁美術学芸課の指導により、ロケットの打ち上げの際に重要文化財を南種子町立埋蔵文化財センターに搬出することとなっている。

令和2年5月20日(水) ロケット打ち上げに伴う搬出 対応:石堂・小脇

令和2年5月21日(木) ロケット打ち上げ終了に伴う搬入 対応:石堂・小脇

令和2年7月13日(月) ロケット打ち上げに伴う搬出 対応:石堂、小脇

令和2年7月15日(水) ロケット打ち上げ終了に伴う搬入 対応:小脇、石堂

令和2年10月15日(木) 企画展に伴う黎明館等からの重要文化財の搬入 対応:小脇、石堂

令和2年11月28日(土) ロケット打ち上げに伴う搬出 対応:石堂、小脇

令和2年11月29日(日) ロケット打ち上げ終了に伴う搬入 対応:小脇、石堂

令和2年12月21日(月) 企画展に伴う黎明館等からの重要文化財の搬出 対応:小脇

(6) 防火・防犯訓練

自主防災訓練:令和2年5月20日(水)

消防点検:令和2年8月5日(水)

防犯訓練(語り部の会ボランティア日に実施し、語り部も参加):令和2年8月19日(水)

消火器入替:令和2年10月20日(火)

第4節 調査・研究

(1) 調査・研究

○調査等

- 4月3日 種子島宝満神社の御田植祭調査(石堂、小脇、柳田)
- 4月4日 平山大浦川の麻生家の石塔調査(石堂)
- 4月24日 平山大浦川の麻生家の石塔調査(石堂、小脇、柳田、柳田和則文化財保護審議委員)
- 4月30日、8月4日 AKI INOMATA リモート会議
- 5月14・21日、6月11・15日 鹿児島大学久保田治助准教授リモート会議
- 5月30日 才川忠則氏資料寄贈調査
- 7月5日 文化庁田中調査官(植物)調査対応(前之浜の植生等)(石堂)
- 8月2日 明治大学平川景子教授、鹿児島大学久保田治助准教授リモート会議
- 8月8日 下野敏見名誉館長による指導・助言(鹿児島市、石堂)
- 8月11日～ AKI INOMATA 氏種子島宇宙芸術祭レジデンス対応
- 10月16日 九州大学米元史織氏資料調査対応(小脇・石堂)

10月19日～ AKI INOMATA 氏種子島宇宙芸術祭レジデンス対応。

11月14日・15日 下野敏見名誉館長による指導・助言(鹿児島市、石堂)

11月14日 竹中正巳教授(鹿児島女子短期大学)調査対応(小脇)

11月19日～21日 種子島の盆踊調査事業「盆踊調査、調査委員会」(石堂、小脇)

12月7日～8日 同志社大学水ノ江和同教授による資料調査(石堂)

12月20日～21日 堺市博物館資料調査(石堂)

1月6日 東京女子家政大学石垣教授リモート会議

1月18日 河内神社、極楽寺跡調査(石堂、柳田文化財保護審議委員)

1月25日 島間の四方祭調査(石堂)

3月12日～21日 種子島の盆踊調査事業「西之本国寺盆踊調査」(石堂)

○調査成果

・3～7世紀の琉球列島における人と文化の交流史研究報告書「広田遺跡の研究」研究代表木下尚子、研究協力者(石堂、小脇)令和2年3月刊行

令和2年度 地域の特長ある歴史文化財活用事業
広田遺跡ミュージアム開館5周年記念企画展

広田人と貝装飾

広田遺跡出土品里帰り展

2020
10.24-
12.20

【目録】
① 広田遺跡出土品(資料所蔵:九州大学総合研究博物館)
② 下野氏蔵(国重要文化財、鹿児島県歴史・民俗センター寄託)

特別講座 (全3回)
日時 11月14日(土) 13:30～15:30
場所 広田遺跡ミュージアム 体験学習室
講師 竹中正巳教授(鹿児島女子短期大学)
『最新研究から種子島人のルーツを探る』
定員 20名(先着順;電話、メール申し込み)
申込フォームは入場券予約用紙等の請求書に付
内訳を要する場合はお問い合わせください

開館時間 9:00～17:00
休館日 月曜日(祝日の場合はその翌日)
入館料 300円(団体250円)
中学生以下は無料
広田遺跡ミュージアム
〒891-5702
鹿児島県鹿児島市南種子町手山2571番地
Tel 0997(24)4811 mail hirata@hac.ac.jp

広田遺跡の出土品が帰ってくる

広田遺跡出土品の数々が南種子町に里帰りします
黎明館所蔵の貝製装身具(国重要文化財)に加え、九州大学総合研究博物館所蔵の埋葬人骨の全身骨格も展示するほか、広田遺跡の最新研究についても紹介します
少しずつ解き明かされてきている広田遺跡の謎に迫ります。

広田遺跡人骨
昭和30年代以来初の里帰り!

所蔵:九州大学総合研究博物館

広田遺跡出土品(国重要文化財)
17年ぶりの里帰り!

所蔵:鹿児島県歴史・民俗センター黎明館

種子島宇宙芸術祭 2020×AKI INOMATA

AKI INOMATA「貨幣の記憶」
日時:2020年10月29日(木)～11月15日(日)
場所:広田遺跡ミュージアム カイダシスルーム

種子島宇宙芸術祭の2020年度参加アーティストAKI INOMATAさんの作品を特別展示します。
インターネット上での仮想通貨の設計が当たり前になった今、「貨幣」のあり方を問う一歩を踏む。各国の貨幣に描かれている人物を貨幣から切り離し、古代から世界共通の通貨として使われている「貝」(今回は黒鉄貝)にモチーフとして取り入れた作品です。

広田遺跡ミュージアム 開館5周年記念企画展 ポスター

(2) 研究報告

本研究報告では、南種子町のガローについて3本の研究論文を掲載した。

論考1の「南種子町平山地区のガローについて」は、2014年2月13日の種子島地区文化財保護審議会委員等研修会で口頭発表したもので、正式に活字化するのは、本報告が初である。

論考2「南種子のガローについて」は、2017年7月6日に、熊毛地区文化財保護審議会委員等研修会（会場：西之表市種子島開発総合センター）で口頭発表したもので、正式に活字化するのは、本報告が初である。

論考3「ガローについて」は、今回、新たに書き下ろしたものである。実際の発表では、それぞれの発表資料に写真を付し、表と位置図を作成していたが、本稿では、まとめて表及び図を作成し、末尾に掲載した。なお、調査したガローの写真や詳細な位置図は、「南種子町の神社・仏閣」冊子に掲載したので、参照されたい。表番号は本稿と「南種子町の神社・仏閣」冊子は、共通する。

いずれのガロー研究も、広田遺跡ミュージアム下野敏見名誉館長による種子島のガロー研究に負うところが大きく、下野先生の研究に深く敬意を表したい。（長田忠）

論考1

南種子町平山地区のガローについて

広田遺跡ミュージアム運営協議会
会長 長田忠

はじめに

私の生家である長田家では、家に付属するガローが2箇所あって、過去には祭祀を行っていたため、ガローについて以前より関心があった。そこで、現在では忘れ去られようとしているガローの、平山地区内の場所を特定し、祭祀のやり方などを残すことを目的に調査を行った。

調査の方法

各集落の長老達からの聞き取り調査によって実施した。多くの情報が収集出来たが、さらに老人会の集まり（ゲートボール

の練習日など）に出向き、お茶の時間に聞き取りをした。意外にも男性はおおまかな場所は知っていても、特定できない場合が多く、女性の方が良く知っていた。一つには、女性は小用をたすにも人目を避けて山陰に隠れますし、ガローは不浄を嫌うとされているので知っているのではないかと、思った。また、昔は、家畜（馬）の飼料となる草を一定の量を必ず確保することが必要であったし、焚き木は、家族総出で一年分の量の生木を切って確保したが、焚きつけ用の柴や小枝を収集するために、一人で出かけることが女性は男性より多かったのは事実である。そういうわけで、女性は母親や姑からガローに近付かないように、場所を教わっていたのではないかと推測している。

平山地区のガロー

ガローの定義は、難しく、ガロー毎に様相も異なる。そこで、まず平山のもっとも普遍的な3箇所のガローの特徴を紹介したい（表1の12・22・27）。

3箇所のガローは、いずれも独立した山にあり、どこからでも入れる。また、人家の中にあり、特に22・27は学校にも近いうえ、人家とは高低差が無く、簡単に入りやすい。こうしたことから、これらのガローには、私達が子供の頃は、親から絶対に近付かないことを、言い含められていたものである。特に27は浜田に通じる道路脇にあって、車を止めやすい場所でもあり、よく知られたガローである。このように、ガローの大きな特徴として、自由に出入りできる環境であるにも関わらずに、ガロー祭祀に関係のない者が不用意に近づくことが禁じられている点をあげることができる。また、ガローに井戸を伴う事例が多い点も注意されたい。

さて、平山地区のガローを図1と表1にまとめた。ここでは、ある程度具体的な内容を聞き取りできたものを中心に事例をまとめた。

○表・図番号12

このガローは、間違いなく「里」で管理

しているガローである。祭祀者は持ち回りでなく、永く一人の方が担当していた。一人の人が担当した理由は不明である。井戸は少し離れていて、16と同じ形態であるが、井戸はガローと一緒に管理をしていた。水道が普及した時点で、祭祀者より、「高齢になったので交代をしていただきたい。自分の子供に譲るべきなのか。別の方をお願いするのか、検討していただきたい。」と申し入れがあったとのことである。話し合いの結果、「井戸の掃除もしなくて良いし、今頃は祭祀も必要ないだろう。」ということになり、現在に至っています。当時の祭祀者の跡取り（現在 70 歳）は存命であるが、父親からは何も聞いていないとのことである。

○表・図番号 15

現在でも祭祀をしていて調査者も驚いた。ガローは山の中腹にある。祭祀者は、その家の長男ではなく、三男である。祖父から、祭神は山の神、水の神、火の神だと教えられ、寄木の根元の石は、田の神だとも聞いているという。遠い水田の脇にあったものを年老いて祭祀が辛くなったので、合祀したと聞いている。

祭祀は 12 月 31 日に行い、兄が帰省していれば必ず一緒に行く。「山の神」のお札をもらい、「シェー」を取って、少し大きい餅を 1 個、小さな餅（落成式の時にまくもの、ゴー）を 12 個、重箱に入れて持参し、大きい餅を 1 個供えシェーをかけて拝礼する。12 個のゴーは持ち帰って食べる。昔はこの里の子供達は、通学にはこの峰を越えて行く近道で、その山道の脇にガローはある。子供達はガローの前で拍手を打つか、お辞儀をして通っていた。

平山では正月に掃除をしたあと、家の庭と墓地に海の砂をまく風習がある。砂浜に砂を取りに行ったついでに、シェーを取るの、全ての家庭で昔は行われていた。

○表・図番号 16

井戸（水の神）を祀ったガローである。人家の脇の水田のかたわらに、独立して数本の木が立っていてそこに井戸がある。こ

の里には、他にも 2 ケ所の井戸があるので、周辺の数戸単位で祭祀をしていたものと思われる。祭祀者・祭祀の方法など、不明の点が多いが、水の神を祀ったものであるので取り上げた。同様のものに、表・図番号 9、14、26 がある。また、12、27 も、ガローと一緒に管理しているので、そこで説明するが、立地は同様のものである。

○表・図番号 17

山の中腹の斜面に大きな椎の木があるが、この椎の木がガローの寄木であることを示す痕跡は、何もない。ただ、前年のお供えを乗せたと思われるトレーが一枚落ちていた。当主（祭祀者）は 40 才代。父親は昭和 7 年生だが、10 数年前に亡くなった。ガンの告知がなされたときに、出郷していた現在の当主が呼び戻され、家業を継ぐことになった。その時に、ガローに連れて行かれ祭祀を教えてもらった。

祭祀は旧暦の 6 月 15 日。餅を搗いて、お神酒を注いで礼拝する。現在では夏の餅は食べたくないの、米の団子を作ってお供えをしている。昔の平山から茎永に通じる旧道の脇にある。対岸の水牛の人の耕地が、ガローの上のほうにあるそうだが、現在は荒地になっている。昔は周辺に住居があったらしく、墓地があるという。

○表・図番号 20

山の中腹にある。登り口は急峻な岩山で、「落ちたら死ぬぞ」と本気で思った。「西田家」の氏神と祭祀者はいつている。現在では周辺に、西田姓は 3 軒しかないが、戦後は引揚げて来た人も居て、4～5 軒の住宅があった。祭祀者の家も県道の脇に移転している。現在の家は、引揚げて来た一人が土建業を営んでいて、その人を中心に建設した。世の中が落ち着くにつれて、都会に出て行って、現在に至っている。当主は 40 才代。父親は昭和 12 年生で数年前に亡くなったが、その妻から次の話を聞いた。当主の祖父が管理をしていたが、亡くなってからは放置していた。父親の兄妹や孫が時折具合が悪くなって、医者に行っても原因が判らない

ことがあったので「物知り」に行くと、「北の方角に、墓ではないが何かある。本来あなたの家が管理するべきものだが、放置しているのが原因だ」と言われた。思い当たらないので、兄妹で話し合ったところ、父親が管理していた事を思い出したとのことである。そこで、家内総出で掃除をし、花を供えた。現在は盆と正月に掃除をし、折々に花を供えているとのことである。また、それ以来、健康に過ごしているとのことである。

○表・図番号 22

小川家、上妻家、日高家の本家の共同のガロー。この三家は、姓は違うが、本来の出自は同じであるという。その中で小川家が総本家であるが、戦前から鹿児島に出ていて、日高家で祭祀をしてきた。当主は 60 才代。父親から引次いだ時から寄木はなく、小さな石が御神体であった。暮れに掃除をし、砂を撒いて、花と餅を供えて礼拝するだけである。

小川家の当主が亡くなったあと、その未亡人が来たことがあり、小川家が祭祀をすべきなのにしていないので、鹿児島で祭祀をしたいと申し出て、御神体の石を持って行ったことがある。数年してから、やはり居るべき場所に置くほうが良いらしいとまた、元の場所に持ってきた。未亡人が亡くなると、その後継ぎが来て、また鹿児島の方に持って行き、そのままになっている。以来、20 数年祭祀はしていない。

○表・図番号 27

向井里のガロー。井戸は少し離れていて、表・図番号 16 と同様な形態である。現在は道路拡張や公民館敷地の拡張によって、森はなくなり水神の石碑が立っている。この里では、ガローと井戸の管理、祭祀は同日に行っている。写真の石塔には、明治 27 年 12 月 27 日建設と刻んである。現在は 7 戸が居住していて、里代表が持ち回りで決まり祭祀の音頭をとるが、ガローと井戸の掃除は 12 月 29 日に行われていた。正月準備が終ると、住民はお盆にユズリハとモロバ

を敷き、餅を 3 個とお神酒・シェーを持ってガローと井戸に参拝する。正式には、3 個の餅をそれぞれ半分にして供え、半分は持ち帰ることとなっているが、現在では 1 個供える方も多い。現在もガローと水神には里の住人が折々に花を供えている。

○長田家の祭祀

表・図番号 24・28 の二つのガローが、筆者が管理していたものである。24 は、住居から直線距離で 1 k m 以上離れている。表・図番号 8・10・17・23 も、同じように離れている。17 は、近くに墓地があって人家のあった形跡があり、水牛の里から近いが、他のものは住居などがあった形跡はない。何故こんなに遠い場所にガローがあるのか、一切が不明である。

ガローは、真ん中の低いところに小川が流れていて、右側の斜面に寄木があり、株元に三枚の平たい石灰石が横に並んでいた。手前の荒地は、私名義の水田である。小字は「御仏供田（おぶくでん）」で 380m²。私名義の水田はこれだけで、付近の水田が私の水田であった形跡はない。現在の農道は遠回り、図・表番号 20 の脇を通る峠越えの作道を通して祭祀に行っていた。昭和 40 年代に基盤整備事業が行われ、現在の農道が完成した。私が自動車を買ったのは昭和 50 年であるが、数年その自動車を通った記憶がある。その頃、猛烈な台風が襲来し寄木が倒れた。その時点で、家の前の図・表番号 28 に合祀した。

28 は、ガローの南側の長田家と共有のガローである。祖父同士がまた従兄弟ぐらいだったようで、出自は同じのようだが、その家は現在、空き家になっている。土地の名義は共有である。中央の斜面に立つ、「タブ」の太木が寄木であった。寄木の前に幅 1 m、幅 30 c m、高さ 30 c m ぐらいの石灰石（サンゴ石）が積まれた祭壇があり、寄木がわに平たい石灰石が 3 個横に並んでいた。西之表市軍場神社の御神体のうち、正面のセメント作りのものと、3 本の花瓶が無くしたもの、ほぼ同じ雰囲気のものであった。24 のガローを合祀した後、昭和 50 年

代の後半だったと記憶しているが、台風で寄木が倒れ、その時点で祭祀を止めた。概ね20数年前である。

祭祀は、正月4日・旧暦の6月。6月は月の内に行けば良いことになっていた。前日に、神主に「山の神」のお札をもらう。ほかに注連縄（正月のみ）。重箱に入る程度の大きめの餅を一個、小餅（ゴ）7個。お神酒を入れたサイダー瓶一本。空瓶（シェーを入れるもの）一本。鎌一丁。ミチシバ（サンカクイ？）2～3本をカンザーに入れて背負う。朝早くまだ暗いうちに海岸に向うが、私の家から片道2kmある。まず草を刈って「苞（つと）」を一つのガローに2個作り、波打ち際に向う。波打ち際の砂を苞につめ、空き瓶に海水を入れてガローに向う。ガローに入る前に竹を一本切って先端を割りお札を挟む。そして鎌を手を持ったまま山に入る。鎌をもつのは厄除けかもしれないが、夏は「まむし」が居たときの用意でもある。お札を立て、注連縄を張る。両脇に苞シェーを置き、正面に餅の入った重箱を開き、3個の石灰石の上に一個ずつゴを置く。中央が山の神、向かって右側が水の神、左側が火の神である。ゴにお神酒とシェーを掛けます。二礼二拍手一礼をして祭祀が終わる。

ガローの祭祀のあとは、シェーの瓶を手にとって、ガローの脇にある井戸に行ってシェーを少し注ぐ。家にはいっても無言のまま神棚の前にいく。通常神棚には、お神酒を注ぐ盃、朝お茶を入れる茶渋で黒くなった茶碗があるが、その朝は、母親が二つとも空にしていた。お神酒を注ぎ、茶碗にシェーを入れる。花瓶のユズリハかモロバの葉をちぎり、シェーを付けて座敷に撒いてまわる。地炉（じろ、いろり）の中と台所の竈の中に少し注ぐ。朝食のあと、重箱の中の大きめの餅の上に、普通の大きさの餅を7個足して、神主の家に持って行く。これがお札のお代であった。

昔から、シェーを取りに行ったり、祭祀を行う場合は無言を通すことになっていた。祖父の代では、雨の降らない時でも、笠をかぶり蓑をつけて行った。私が⑩のガロー

に行くときは、帰り道の人家では、老人は起きていたが、会っても笑顔で見送るだけで、声は掛けてこなかった。

○図番号 31

向井家の個人が祭祀を行って来た。当主は65才、父親は90才で生存している。正月に祭祀をしていたが、現在では年末に行っている。山の斜面にサンゴ石を積んだ祭壇がある。現在は基盤整備をして水田面積が広がっているが、昔は小区画の田に分かれていて、そのうちの一枚の田がガロー田であった。

①「たたり」の解消祈願

農家は、天気の良い時は外で働くので、子ども達が具合の悪いことを知るのは概ね夕方であることが多い。現在では、直ぐ車で病院に行くが、私達の子どもの頃は、電話も車もなかった。上中の病院に行くには、子どもを背負うか馬に乗せて連れて行くしかなかったので、重篤な状態でなければ、越中さん（配置薬）の薬を飲ませて経過を見るのが普通であった。その時に必ず子どもに聞くのが、「遊んだ場所はどこか？」であった。子供達はガローにはいったか、周辺で遊んだ時は正直に言う。その場合は、「お父さんがガローの神様をお願いしておく、明日は良くなるから」と言い聞かせて寝かしつける。

準備するものは、お盆かお膳に、小皿を三枚並べ、米、大豆、塩を少量ずつ入れる。お神酒を少々もつ。他人から見られない時間に小川に向う。橋の中央に川下を向いてしゃがむ。神様は川上に向って座っているので、川上に向えば背中をお願いすることになって、聞き届けてもらえないからだと聞いている。川では、橋の中央が水の神様である。最初に米を一つまみして、「水の神様に上げ申す」と言って川の中央に落す。右が山の神様、左が火の神様となり、同様に落す。大豆・塩も同様に落す。小皿に残ったものは、全部川の中に落す。残った物を持ち帰ると、神様がケチンボウだと思って、聞き届けてもらえない。お神酒も同様に注

ぎ、残ったものは全部注ぐ。「子どもが、はいってはいけない所にはいったようです。どうか熱が下がるように（腹痛が治るように）お願いします」と唱えて二拍手して終わりである。これで明日の朝には子供は元気になっていた。

実際は、薬の効果か祈願の効果か判らないが、当時の人々がガローを恐れていたことは事実である。私たちの子供の時代は、この祈願は誰もが「常識」として知っていた。代々言い伝えられたものだと思う。私は祖父から教わった。

おわりに

広田のガローは、昭和 30 年代に「遺跡」の発掘に併せて、下野敏見氏が 7 ケ所の場所と、祀者の氏名を特定している。7 名のうち 2 名は生存しているが、島外に住んでいて連絡がとれない。5 名は亡くなっていて、4 名は子孫が残っているが、何も聞いていないとのことだ。1 名は子孫が島外にでている。他の集落のものも、同様に管理形態・祭祀者が不明ものが多くあった。祭祀を行っているものも、成立過程などは何も聞いていないとのことである。ガローの場所は 26 ケ所は特定したが、8 と 10 は農道の新設や河川工事のため森がなくなって痕跡をとどめておらず、場所がはっきりとは分らない。21 は、県道の拡張・水路の整備のため、森が無くなっている。

ガローの成立については、一般に森の神信仰、開拓したときに出た岩石などを集積した場所、防風林、水源涵養地などの解釈があるようである。中種子町の平鍋のガローの看板にも、同様の記述がされている。もとより、今回の発表は、ガローの場所の特定とそれにまつわる話、祭祀の方法を聞き取りしたもので、その成立などに迫ることはできていない。

ガローの場所を特定することが、学術的にどれだけの価値があるか分らないが、我々の世代が居なくなれば、調査はさらに困難になる。記録だけでも行うという姿勢が重要であるとすれば、他の地域でも、一

日でも早く着手されるべきだと感じた次第である。

参考文献

「種子島の民俗 1」下野敏見 昭和 57 年
法政大学出版局

「田の神と森山の神」下野敏見 平成 16 年
岩田書院

「茎永のガロー」岩坪香 平成 7 年 南種子町地名研究会

「里の暮らし」向井二生 平成元年 自費出版

「南種子町の神社・仏閣」南種子町教育委員会、南種子町文化財保護審議会 平成 30 年

論考 2

南種子のガローについて

広田遺跡ミュージアム運営協議会
会長 長田忠

1. はじめに

私は以前、平山のガローについて調査を行い、その特徴をまとめたことがある（註1）。その後、少しずつではあるが、南種子町文化財保護審議会では他地域のガロー調査を実施してきた。現在、下中・西之について、ほぼ調査が完了したところである。

そこで、本稿では、南種子のガローの中でも、特に、下中・西之のガローを中心に紹介したい。

2. 南種子のガロー分布とその特徴

下野敏見氏の調査（註2）によると、南種子町内には80ヶ所に及ぶガローが存在するという。一方で、私たちが現在までに確認した南種子町内のガローは70ヶ所をこえる。下野氏が過去に調査したものうち、現在はその所在すら分からないガローが一定量存在し、また、下野氏の調査から漏れたガローも存在する（表1）。両方の調査成果をあわせると南種子には95ヶ所以上のガローが存在したことになる。分布図を見ると、ガローは、平山・荃永・下中・西之東海岸・上中河内等の水田地帯に多く、島間・西海・西之西海岸・上中丘陵部・長谷などの台地上には少ないことが分かる。ガローの多く存在する水田地帯のうち、下中・西之東海岸及び平山のガローに共通する特徴は水との関わりであり、水田稲作と一定の関係性があることが伺える。西之西海岸では各集落に一つ程度のガローが分布する。現在はガロー伝承が継承されていない集落もあるが、おそらくは、上中、島間においても同様であったろう。このように、一括りにガローと言っても、その成り立ちは多様であることがわかる。

3. 下中地区のガロー

まず、下中地区のガローについて、聞き

書き調査をした内容を紹介したい。

・里集落のガロー

里集落には、昔は、以下の5つのガローがあった。ほとんどのガローは宅地造成で消滅したり、狭くなったりしているが、中里安治さん宅裏のガローは、現在も祭祀をし、当時のまま残されている。また、タブチのツルベといって、こゆか（味の濃い）水がコンコンと沸くツルベもあった。他にも里にはたくさんのツルベがあった。

表 86 里中道のガロー（有留商店裏のガロー）

中道のガローは、一番のガローだった。ここも屋地の拡張でどんどん小さくなった。後のほうになるとガラス等が捨てられたりしていた。

表 87 中里安治さん宅裏のガロー

このガローは、消防詰所と中里安治さんの家の間にある大きな森。サンタブの大木がガローの依代だったと思う。正月と盆に祀っているらしいが、詳しくは後日、中里安治氏に聞くことになった。

中里安治さんのじいさんは、ケッサージイといって、名物な人だった。このケッサージイが、安治さんがまだ幼い頃、小便がしたいというので、このガローの森に向かって、安治さんを抱いて、シーシーといって小便をさせたところ、武士の格好をしたメンコーがガローのほうから出てきたらしく、ケッサージイが、サムライ、サムライと指さしたという話を聞いた。それからというもの、このガローは大切にしなければ、ということで大事にするようになったときいた。ケッサージイは、下中のトトたちが、歌文句をつくっているくらい有名な人だった。大きな木造の船をもっていて、帆をかけ発動機を積んで、屋久島は当たり前で、韓国まで行く人だった。弥十氏がケッサージイの養子。郡川丸という大きな船だった。このガローにいく手前、田淵川さんの家の前には、ツリイ（ツルベ）があり、今も利用している。

表 88 鮫島和夫さん宅裏のガロー

このガローは、トックリメンが出るところだと聞いた。このガローに限らず、里の

ガローというものは、トックリメンがでたり、ヌレヨメジョーがでたりするところだと聞いた。

表 90 高田平氏宅裏のガロー

高田平氏が馬小屋（倉庫）を作っている所は、昔は大きな森のようになっていて、ガローだと聞くものだった。大きな森だったので、ヒヨドリなどがいて、鳥を罠で捕まえる場所だった。調査中に通りかかった上妻信男さんもガローだと聞いたことがあり、鳥の罠をかけにきたこともあるとのことだった。

表 89 遠藤教氏宅裏のガロー

ここもガローだと聞いた。今では屋地の拡張で、ごくわずかに木が残るだけである。ガローに向かって小便をするとチョッコーが腫れると聞くものだった。ガローはオソロしか所だが、あとのほうになると、ガローのところにガラスやコンクリート等を捨てるようになった。

タブチのツルベ

このツルベは、埋めたら罰があたるものだと、年配の方々から昔聞くものだった。ケンロウという人が埋めてしまったが、いろいろ起きたので、お祓いなどをしたときいた。祟るツルベだった。このツルベで遊ぶときは絶対に小便などをツルベに向かってするなど小さい頃言われるものだった。里の人全体のツルベだった。道が通った時にツルベから田のほうにむかって暗橋を入れたと聞いた。里には6つ程のツリイ（ツルベ）がある。ガローに明確に付いたツリイはないと思う。

・山神集落のガロー

岩坪フキエ氏が64年くらい前に、岩坪家に嫁いですぐ位の時に、畑のところに家をつくったが、岩坪フキエさんの畑と古市ナオヒコオジーの畑の間に小さな森山があって、そこはガローだと聞かされた（表 92）。家をつくるからその森山を崩すんだというので、シュウトジョーが、ホイドンをやとってハライをしてその森山を崩した。山には何かの木が生えていたが、何の木かはおぼえていない。ガローヤマ、ガローヤマとい

うて、それ以外の特別な呼び名はなかった。ガローヤマにしょんべんをしたらタタルローと聞くものだった。ガローヤマにショーベンをシカクンナヨーというものだった。

また、アキラオジーの家のところに、ふっとかエノキの大木があってガローと言われた（表 91）。その木の種類が本当にエノキかはしらないが、葉の裏が白い木で、みんなエーノキ、エーノキといていたが、その前の道を死人が通ったらいけないというので、死人を担いで運ぶときは、山神川側の田のほうに小さな小道があってそこをつかって遠回りするものだった。なんでいけないかというと、そこを死人を担いで通ると、亡骸が無くなって軽くなるということで、絶対通ったらいけなかった。カンジャのイチオジーという人が子が病気になって西之表に運んだけど死んで、カンジャの人だから、しらんじー、その子をかかって、エノキの大木の下を通ったけど、子はそのまま亡骸をとられることもなかったから、迷信じゃったけりゃとなったけど、やっぱり気になるので、昭和62年に岩坪フキエさんのオジーの母がいよいよ病気が重くて亡くなるという状況になって、亡くなる2週間くらいまえに、亡くなったら車で母を家に連れてくることになるからといって、チョウニンにはかって、アキラオジーにも相談して、ホイドンをよんでハライをして、その大きなエノキの木を伐った。その大きなエノキの木を伐ってハライをしたから、もうこの道は死人が通ってもいいんだということになって、自動車でその道を通って、亡くなった母を家に迎えた。

・夏田集落のガロー

夏田には2か所ガローがあったというが、夏田照さんの田の場所に、構造改善の前にあったガローである（表 78）。田の畔に幅2、3メートルくらいのこんもりした場所があって、ガローだと聞いていた。構造改善によって、壊されて今はない。元は郡原のカリバタさんの田だと聞いた。また、その田のあった場所の茎永側の山の中にもガローがあると聞いたことがある。

夏田耕一氏の名義になっている山は、ガローだと聞くものだった(表 79)。また、田の一角に 2、3 メートルこんもりとしている場所があってガローだと聞いた。

・郡原集落のガロー

郡原神社の横を更に山手にいったところに、バジョウミヤという場所があり、そこはガローだと聞くものだった(表 83)。昔、郡原神社にきた古市という人がいて、その人が亡くなった時に埋めた場所で、自然石が立っている。その石は墓石だときくものだった。そのバジョウを埋めた場所だと聞いた。大人の胸くらいの高さがある自然石で、その両脇にも石があり、3つの石が立っていて、文字がほっていた。中学生くらいの頃に、みたことがある。現在のドベ畑からすぐ横にいったところの峰筋に立っていた。バジョウミヤは、腰がかなわなくなったり、頭が痛くなったりするから近づくなど聞くものだった。また、おそろしかところだから近づくなどと言われる場所だった。

現地を一緒に確認にいったが、元照大明神宮と書かれた自然石の石塔があり、幸男氏に確認していただいたが、これではないという。もっと大きな自然石の石塔であったということで、周辺をだいぶ探したが見当たらなかった。

バジョウヤマは、とにかく祟るところだと聞いた。ガローだとは言わずに、バジョウヤマ、バジョウヤマといった。バジョウヤマには焚き物とりにも、なにーにも、絶対いかなところだった。バジョウヤマは、祀りもしていない、ほっとくのが一番、かかしあうとたたるといところだった。バジョウヤマの石は、胸の高さくらいまである大きな石だった。(今回撮影した元照大神宮の自然石をデジカメで見せたが、これではないという)。畑のひょっとくりにあった。ひとかえくらいある大きな自然石だった。古市シズトシさんのドベ畑の横にある。バジョウの由来は知らない。寺川のガローも、内の田のガローも聞いたことはない。

・真所のガロー

中町ヤスジさんの家と若松勝さんの家の間に小さな森があって、そこがガローである(表 93)。中園ヤスジさんは昔馬を飼っていたが、その馬が立て続けに死んだ。一匹は、荃永で熱中症のようなもので死んで、荃永松原の鉄砲射場に埋めた。真所では、馬が死ぬと前之浜に埋める場所があってそこに埋めた。

このガローに子供が小便などをすると、チョッコが腫れると聞くものだった。実際にチョッコが腫れた子供もいた。そういう時は、馬にカンモータ、というものだった。

真所でガローは、若松勝さんとヤスジさんの家の間、関田さんの園畑のところ(ただし、ここはガローではないという人も多く今回は数えていない)、関田さんの家の前の門口の所のウト木の大木のところがガローだった(表 94)。その大木は、片側が皮の剥げたような大木で、荃永の大工の杉園さんがクレーといって、持って行った。杉園さんは、それから良くないことが立て続けに起こったと聞いた。そこを死人を担いで通ると、急に軽くなるというので、絶対に死人をかるうてとおるなというところだった。葬式の度にその前の道を迂回して通ったのでよく覚えている。

ガローの祀りをしているという話は聞いたことはない。

森山は、山そのものがガローだと聞いた。タケノコもかがんかった。小便をすればチョッコが腫れるというものだった。ただし、下野氏は森山はガローではないとしており、本論でもそれに従い、数えていない。

4. 西之地区のガロー

ここでは、西之地区のガローについて、聞き書き調査をした内容を紹介したい。

・本村集落のガロー

宇都にはふたつのガローがある。宇都のガロー(キカマスのガロー表 112)と浅香野(あさがの)ガロー(表 113)である。このほか、公民館のところに中ノ崎のガロー

がある（表 114）。

宇都周辺は昔鍛冶場であった。カナクソが出てくる。

浅香野ガローは祟ると子供の頃から聞かされていた。祀りをしたことはない。

昔、和人組がガローに隣接して砂防ダムを建設するとき、そこの従業員であった島間の上妻さんが大変な目にあい、ホイドンに祀ってもらったことがある。もったんなか（おそろしい）ガローであると昔から言われている。

宇都のガローは正月とか潮祭りの際に地区公民館が祀っている。

中ン崎のガローは2月の潮祭りで祀っている。部落と地区公民館が祀っている。昔は部落のみで祀っていた。ガローは2本のアコウの木がまたがった根元にある。石塔もあるが木が巻き込んでしまい分からなくなっている。

・砂坂のガロー

ガローについての話は、叔父の砂坂善司に聞いた。墓地の横がガロー（表 115）だと聞いた。詳しいことはわからない。

・野尻のガロー

ガローは大脇デハチオジーの家の上にあった（表 116）。ガローには石があったと聞いている。ガローの近くにマトイ場（的射場）があった。ガローとは言わず、石塔（セキトウ）と言っていた。

石塔の上のほうに上西目神社があったが、移転した。石塔だけがその場所に残っている。

今も石がある。今は竹やぶになっている。

ガローは畑と学校へ行くための道の間にあった。今もその道跡は残っている。

子供の頃（学校に上がる前の幼児の頃）山野さんが祀っているのを見たことがある。シュエーとりをして祀っていた。

ガローの上は山になっていて、大きな木が手前にあった。そこに井戸があり、今も跡が残っている。

その井戸の水は「神の水」と言われていた。

土地は小阪菊之助さんの土地（今は小阪サダノリさん）だった。

ガローの下には山野ゼンシチオジーの家があった。そこは大脇進さんが土地を買った。

上西目神社については、神社はガローよりも上のほうにあった。そのあと、どういう経緯かは分からないが木原に移った。

・木原のガロー

木原のガロー（表 117）は小脇登さんが現在祀っている。参道があり、コンクリート造りの社が建てられている。このコンクリートの社は登さんが作ったのである。今も祀りを行っており、先日は福祭文もした。小脇家個人のガローである。社の中にはシュエーや酒が祀られていた。正月にしたものと思われる。近くに井戸はないが、昔はすぐ下のところに湧き水が湧いていた。上西目神社については、神社の建てられた場所は濱田家の土地（野尻）であった。その後（明治の頃）木原に移された。神社の前は寺だった。その頃、古市家の人間が坊さんになろうとしたが、武士であったためならなかった。そこで、濱田の姓をもらって濱田となり、坊さんになって寺を作ったと聞いている。その人は濱田ヒコザエモンという。廃仏毀釈で寺から神社に変わった。神社の跡には昔の小道が残っている。

・中西目・宮園のガロー

宮園という字にある、宮園ガロー（表 115）とも。昔はアコウの木とビロウがあったが、道路（県道）を作るときに切った。切ってはいけないと言う話をしたが、工事で切ってしまい、土砂崩れがあったと聞いている。ガローのたたりだと当時は言ったものである。前之原のガロー（宮園ガローのこと）は祟る恐ろしい山と聞いていた。坂口さんが祀っていたので坂口のガローと呼んでいた。宮園のガローとは言わなかった。そこで竹を切ろうとして竹がはじき目に当たり怪我をした話を聞いた。

・中西目・上小田のガロー（表 118）

小田の上小田（かみおだ）には大きなアコウの木があり。子供の頃はその木にしめ縄をしていた。久木原部類など、この周辺の人たちが祀っていたのではないか。この木が祟るという話は聞いていない。ガローとは聞いていない。この周辺はカミといって家がたくさんあったが今はほとんど残っていない。その下（海側）をシモと呼んだ。その近くに昔の墓がある。墓の道反対にあるところは、小田という人や戸石の本家があって、その近くで氏神を祀っていた。今はオオヤマに荒れて入れない。

《龍泉寺について》

小田神社の入口には大きな石が二つに割れ、両脇に据えたと思われる大きな石が門柱になっている。

横の公民館入口にも、大きな石が立っている。文字はない。その手前の土手にも同じように大きな石が埋まっている。この二つの石は龍泉寺の名残ではないかと思っている。

この手前の埋もれた石は、目の前の家の小田家が祀っていた記憶がある。

これらの石がある土手周辺は、神様がいるといわれ竹などを切ったり入ったりしない。

神社の奥には小さな石が立っており、寺の坊さんの墓だといわれている。神社の横に墓と思われる石がいくつか残っている。「妙法～」と書かれており、寺の名残だと思う。境内に樹齢100年を越えると思われる大きな赤松があったが松くい虫にやられて枯れてしまった。

5. まとめ

5年以上に及ぶ調査で、ガローは、この地域の風土を端的に物語る貴重な文化遺産であることを痛感した。こうした各地域に特徴的な文化財を地域に住む人自身が問題意識を持ちながら調査をすることで、地域にとっての文化財の価値を見出すことができると感じていて、その上で、活用と保存の在り方を議論することが重要であると感じている。

註1 長田忠 2013 平成25年度種子島地区文化財保護審議会委員研修会事例発表「南種子町平山地区のガローについて」

註2 下野敏見 1981 「ガロー山をめぐる諸問題」『南西諸島の民俗Ⅱ』

論考 3

ガローについて

広田遺跡ミュージアム運営協議会
会長 長田忠

はじめに

南種子町の「ガロー」については、下野敏見氏に代表される研究者による研究の他、地元郷土史家の岩坪香氏による茎永及び竹崎のガローについての報告が知られる。

平成25年度に、平山地区の調査を始め、27年度までに下中地区・西之地区の調査が概ね終了し、それぞれの成果は熊毛地区及び種子島地区文化財保護審議員研修会において発表している（論考1、2）。

28年度以降、西之地区の残り、島間地区・西海地区・上中地区の調査を実施し、南種子町の調査が終了した。まだ取りこぼしもあると思えるし、調査不足もあると思うが、調査の概要を報告しておきたい。

1. 各地のガロー（未報告分を中心に）

①西之地区

・下西目のガロー（表120）

徳永氏が祭祀を行っている。下西目神社の境内の左手、外側の山にある。依木は大きなタブの木であり、大きな椎の木もあったが、現在は無い。石塔が建っているが、この石塔は西海の立石にある徳丸ヶ野から持ってきたという。

・平野・曾中のガロー（表124）

ガローとは言わずに、「ガラン」と呼ばれていた。おしっこをするな。近寄るなといわれていた。畑の真ん中にあったが、現在は自然石が畑の隅に積んでいる。祭祀者は判らない。

②島間地区

・田尾・石塔山のガロー（表155）

本妙寺近く、平坦な林の中に石塔が建っている。人家のなかに、平坦ですぐに畑にもなるような場所が残っている。石塔祭祀があったとも聞くから、何かの聖地であろう。祭祀者その他一切不明である。

・向方・ナクバロのガロー（表153）

島間城の近くにある。日高氏が祭祀をしていた。本人が亡くなっていて、奥さんに聞いたが何も聞いていないとのことであった。

・大久保・大塚山のガロー（表156）

町文化財に指定されている。島間の地頭であった大塚氏が、藩主が律宗から法華宗への改宗を奨めたが応じず、非業な死をとげた。大塚氏の供養塔があるが、ガローであったと言い伝えがある。

・田尾・オオガモリのガロー（表152）

正確な位置は不明であるが、自然石を使った石垣や区画がある。

・小平山のガロー

所在地は不明である。地元の人もガローのことは知らないという。「ショウロン」と言う聖地がそうでないかと言う人もいる。

③西海地区

・牛野・ナゴダのガロー（表140）

海岸から公民館に向って上がると、人家の手前のカーブの脇に、アコーの大木がある。昔は、この辺りには人家は無かった。海岸沿いから移転してきたのは、昭和近年の初期のことである。昔は大木の根元の自然石に塩や焼酎を供えて、お参りをした。このあたりは、「メン」が出る場所でナゴダメンとして恐れられていた。

④上中地区

・河内・寺田孫十ガロー（表165）

上中神社の裏山には、河内の人達が「盆」にお参りする石塔がある。その手前に寺田孫十ガローがある。依木は椎の木である。

・河内・木田のガロー（表164）

昔は内の田の橋の手前に森があった。その森が木田のガローである。現在は水田になっている。

・河内・カジヤの峯ガロー（表167）

上中神社の正面の森がカジヤの峯のガローである。祭祀その他詳細は不明である。

・河内・ソエのガロー（表166）

上中に上る、旧道の脇の森の中にある。「すいみつ様」と呼ばれ、現在でも小園家が祭

祀を行って居る。自然石の石塔が建っている。

・上野・松隅のガロー（表 169）

上野公民館の下に、ホトケンコー（仏の川）と呼ばれる湧水がある。現在でもこんこんと湧き出ていて、南種子の名水の一つである。泉の脇に依木があったが、現在は枯死している。流水はセメントで三か所に区切られ、洗い場になっている。一番上流が食品の洗い場であり、下流に従い食器・泥付き野菜の洗い場となっている。

・中西・橋口のガロー（表 171）

A コープの前の三叉路を、大川の方に下ればすぐ左側の山がガローである。樟脳川という湧水が湧く場所だった。ガローと池村病院の間を流れて大川に下っている。祭祀者その他は不明である。現在は河野氏の所有になっている。

・中西・長木田のガロー（表 173）

昔は、現在の A コープの前を島間に向かうと、上の平の方から道路が交わる三叉路がある昔は、この辺りには人家も途絶えて、うっそうとした森があった。この森がガローだと聞いている。祭祀その他の詳細は不明である。

・上の平・黒山のガロー(1)（表 170）

日高家一族のガローである。58号線沿い、フラワーショップ「はなかご」の裏の山である。昔は森が深く、真っ暗な山であった。昔は森の奥の木が依木だったが、不便なので現在の依木に移したと聞いている。両親はきちんと1月6日に祀りをしていた。サンタブンの木のウロのところに、焼酎や餅などを供えて祀っていた。両親の亡き今でも、正月に簡単に祀りをする。祟りがあるとか、遊んではいけないと言われたことはなかった。

・上の平・黒山のガロー(2)（表 170）

日高家一族のガローである。前述のガローと同一視されているが、別の取り木である。森の反対側、農協の自動車整備工場向かいに祀っている。昔は両家で一緒に餅つきをして、正月の準備をした。両親は1月6日に祀りをしたが、現在は簡単に祀りをするだけである。

2. ガローの存在しない校区・集落について

調査を終了して全体を眺めた時に、気になる点や補足しなければならない点があるので、以下に列挙しておきたい。

①荃永・新上里、西之・崎原は、上里・本村から別れた集落である。ケンカ別れではなく、人口の増加に伴い、新たな居住地を求めたものである。奉納踊りなどは、今も一緒に行っている。

②西之の野大之・上瀬田は入植地であり、官造牧は、西之表の士族 平山寛蔵の個人牧であった。明治維新のあと所有権を放棄して入植地となった。

③上中は、河内以外は「牧」であった。現在の中心地は近年に発達したのもで、藩政時代は、上野・中西・上の平の少数に人家があった・明治時代に役場を荃永や島間に置いたことも、このような事情である。人家のないところには神仏は存在しない。

④西海校区の、上立石・下立石・大川。島間校区の中之町にガローがない理由は不明である。

⑤長谷校区は、戦後の入植地であり、ガローはない。ガローの成立時期を物語る。

3. ガローの数について

校区別のガローの数は概ね水田地帯に多く、畑作地帯に少ない。平山・30、荃永・18、下中・17、西之本村・3、上中河内・6、の74であり、町内95の78%である。畑作地帯では、概ね集落に一つか二つである。特に平山が多く、町内の35%を占めている。集落の数に対しては、下中も数が多くなっているが、理由は不明である。

4. 神社の数について

逆に神社の数は、平山が極端に少ない。平山・2、荃永・13、下中・3、西之・8、西海・6、島間・5、上中・2。概ね平山と下中以外の校区は、各集落に1社ある計算になるようである。前項で述べたように、上中は集落の数が少なかったので説明が

くと思う。藩政の後期、下の郡5カ村の内、茎永村・宝満神社、中之村（中之下・中之上）・下中八幡神社、西之村・御崎神社、島間村・岬神社、があった。廃仏毀釈があったはるか前の時代から存在していた。平山神社は廃仏毀釈によって、現在の地にあった善福寺の跡に建立された。河内の上中神社も同様に寺院のあとに建立されている。

平山の千座八幡神社は、明治時代に勧請したものであるから、藩政時代には、平山には校区と集落に、神社は存在しなかったことになる。町内の各集落の神社にも、廃仏毀釈の寺が神社に変わった例もあるし、その以前から神社であったものが多いと聞いている。平山と下中の神社が少ないのは、ガローが多かった事とは関係ないと思えるが、説明はつかない。

おわりに

前にも書いたとおもうが、調査の時期が遅すぎたと思う。せめて大正生まれの世代が健在な時に調査していれば、もう少し違った結果になっていたかもしれない。

最後に聞き取り調査、現地調査にお世話になった方々を記して謝意を示す。

（順不同、敬称略、亡くなった方も含みます）

（1）平山地区

徳永実、山田貞道、原宏、原南海雄、原晃一、名越睦男、中畠一三、中畠伝、中畠弘、小川敏夫、西田輝美、山田床一郎、西田ムツ子、日高修、平畠信明、平畠良子、崎田義一郎、鮫島和男、向井正夫、向井トメ、向井整一、向井隆博、長田守、古田喬、山野常夫

（2）茎永地区

羽生源志、片板義丸、後迫光矢、迫田安夫、池亀幸宣、岩下正明

（3）下中地区

夏田照、古市悦子、橋口政秋、宮園益男、中園幸男、古市勉、寺内昭徳、中里安治、上妻信夫、有留時治、岩坪フキエ、添谷清美、添谷ハツエ、河野勝、関田信子、関田幹夫、中町安治

（4）西之地区

柳田安信、柳田安巳、小川信行、鮫島康

信、大脇修、徳永春雄、高田忠義、高田安次、戸石助美、小脇登、浜田岷彦、小脇忠男、砂坂実、小脇和巳、日高芳治、中脇敏光

（5）西海地区

広浜健一郎、園田友則

（6）島間地区

川内田守、久保田健一郎、河東時撤、柳田友茂、今村昭夫、河東義和、日高ハツエ

（7）上中地区

柳田繁、日高哲則、北村ひろ子、日高澄夫、寺田悟、古市弘藏、小藺昭子

（8）その他の協力者

文化財保護審議員 柳田和則、日高友則、稗畑悦郎、岩澤昭文

社会教育課学芸員 石堂和博、小脇有希乃

【表 1】 南種子の神社・仏閣・ガロー

No.	名称	場所	分類	No.	名称	場所	分類
1	千座八幡神社	平山浜田	神社	44	島崎長家の恵比寿	茎永竹崎	恵比寿
2	平山神社	平山中之町	神社	45	島崎彦家の恵比寿	茎永竹崎	恵比寿
3	善福寺	平山広田	寺	46	島崎善家の恵比寿	茎永竹崎	恵比寿
4	広田の恵比寿	平山広田	恵比寿	47	中部神社	茎永中部	神社
5	浜田の恵比寿	平山浜田	恵比寿	48	遠妙寺	茎永中部	寺
6	丸山のガロー	平山広田浜渡	ガロー	49	雨田神社	茎永雨田	神社
7	アンノ峯のガロー	平山広田深無田	ガロー	50	片板神社	茎永片板	神社
8	山田のガロー	平山広田深無田	ガロー	51	上里神社	茎永上里	神社
9	寺の山のガロー	平山広田道上	ガロー	52	上里のマキの神	茎永上里	牧の神
10	上河須田のガロー	平山広田吉原	ガロー	53	善林寺跡	茎永上里	寺
11	南田のガロー	平山広田吉原	ガロー	54	宇都浦神社	茎永宇都浦	神社
12	園田のガロー	平山広田原	ガロー	55	仲之町神社	茎永仲之町	神社
13	中畠十市のガロー	平山西之町無田田	ガロー	56	コーガシラのガロー	茎永雨田	ガロー
14	前田のガロー	平山西之町	ガロー	57	峯先のガロー	茎永雨田	ガロー
15	助十ガロー(1)	平山西之町前田	ガロー	58	矢八のガロー	茎永阿田羅惜経	ガロー
16	彦志ガロー	平山西之町前田	ガロー	59	川向江のガロー (中島ガロー)	茎永阿田羅惜経	ガロー
17	水牛のガロー	平山西之町	ガロー				
18	山田のガロー(1)	平山西之町	ガロー	60	峯ヶ山のガロー	茎永所在不明	ガロー
19	山田のガロー(2)	平山西之町	ガロー	61	山田のガロー	茎永宇都浦	ガロー
20	西之園のガロー	平山西之町	ガロー	62	雪の子ガロー	茎永仲之町	ガロー
21	小園のガロー	平山西之町	ガロー	63	藤田のガロー	茎永仲之町	ガロー
22	平畠のガロー	平山西之町	ガロー	64	リキズのガロー	茎永所在不明	ガロー
23	兵次郎のガロー	平山西之町大谷	ガロー	65	履脱田のガロー	茎永片板	ガロー
24	仙兵のガロー	平山西之町大谷	ガロー	66	片板のガロー	茎永片板	ガロー
25	徳瀬のガロー(1)	平山中之町	ガロー	67	園田のガロー	茎永宇都浦	ガロー
26	徳瀬のガロー(2)	平山中之町	ガロー	68	白木峯のガロー	茎永中部	ガロー
27	向井里のガロー	平山中之町	ガロー	69	ヨシ牟田のガロー (葭原ガロー)	茎永宇都浦	ガロー
28	長田仙兵のガロー	平山中之町	ガロー				
29	古田のガロー	平山浜田	ガロー	70	山田惣八ガロー	茎永所在不明	ガロー
30	大坪のガロー	平山浜田	ガロー	71	菅原のガロー	茎永菅原	ガロー
31	九日田のガロー	平山中之町	ガロー	72	大宮田のガロー	茎永上里	ガロー
32	ヒジリデンの森	平山所在不明	ガロー	73	御田の森	茎永松原	ガロー
33	小川のガロー	平山所在不明	ガロー	74	本善寺	下中里	
34	与左衛門のガロー	平山所在不明	ガロー	75	下中八幡神社	下中真所	
35	助十ガロー(2)	平山所在不明	ガロー	76	浜之里神社	下中真所	
36	平山の牧の神	平山	牧の神	77	郡原神社	下中郡原	
37	宝満神社	茎永松原	神社	78	夏田のガロー(1)	下中夏田	
38	松原神社	茎永松原	ガロー	79	夏田のガロー(2)	下中夏田	
39	下松の神 (磐戸神社)	茎永松原	神社	80	三反田のガロー	下中夏田	
				81	寺川のガロー	下中郡原	
40	阿多羅経神社	茎永阿田羅惜経	神社	82	内の田のガロー	下中郡原所在不明	
41	鬼子母神	茎永阿田羅惜経	神社	83	婆じょうヶ峯のガロー	下中郡原	
42	竹崎の恵比寿	茎永竹崎	恵比寿	84	スゲノクボのガロー	下中所在不明	
43	大崎の恵比寿	茎永竹崎	恵比寿	85	喜四クボのガロー	下中所在不明	

No.	名称	場所	分類	No.	名称	場所	分類
86	中道のガロー	下中里	ガロー	131	中ノ塩屋神社	西海大川	神社
87	里のガロー(1)	下中里	ガロー	132	中ノ塩屋の恵比寿	西海大川	恵比寿
88	里のガロー(2)	下中里	ガロー	133	大川神社	西海大川	神社
89	里のガロー(3)	下中里	ガロー	134	大川の恵比寿	西海大川	恵比寿
90	里のガロー(4)	下中里	ガロー	135	大川の牧の神	西海	牧の神
91	山神のガロー(1)	下中山神	ガロー	136	中ノ塩屋の牧の神	西海	牧の神
92	山神のガロー(2)	下中山神	ガロー	137	広浜家の恵比寿	西海大川	恵比寿
93	真所のガロー(1)	下中真所	ガロー	138	牛野神社	西海牛野	神社
94	真所のガロー(2)	下中真所	ガロー	139	州崎の恵比寿	西海牛野	恵比寿
95	田代神社	西之田代	神社	140	ナゴードのガロー	西海牛野	ガロー
96	金剛寺跡	西之田代	寺	141	牛野の牧の神	西海牛野	牧の神
97	西之本村神社	西之本村	神社	142	宮松原神社	島間仲之町	神社
98	西之御岬神社	西之崎原	神社	143	島間岬神社	島間田尾	神社
99	門倉の恵比寿	西之崎原	恵比寿	144	本妙寺	島間田尾	寺
100	本村の恵比寿	西之本村	恵比寿	145	上方神社	島間向方	神社
101	下西目神社	西之下西目	神社	146	上方の牧の神	島間向方	牧の神
102	下西目の恵比寿	西之下西目	恵比寿	147	霧島神社	島間向方	神社
103	中西目神社	西之小田・前之	神社	148	滝口神社	島間小平山	神社
104	前之原の恵比寿	西之前之原	恵比寿	149	稲子泊の恵比寿	島間小平山	恵比寿
105	野尻の恵比寿	西之野尻	恵比寿	150	島間浦の恵比寿	島間仲之町	恵比寿
106	木原神社	西之木原	神社	151	小平山の牧の神	島間小平山	牧の神
107	木原の恵比寿	西之木原	恵比寿	152	オーガモリのガロー	島間田尾	ガロー
108	砂坂の恵比寿	西之砂坂	恵比寿	153	ナクバロのガロー	島間上方	ガロー
109	砂坂神社	西之砂坂	神社	154	小平山のガロー	島間小平山所在不明	ガロー
110	平野神社	西之平野	神社	155	石塔山のガロー	島間田尾	ガロー
111	本国寺	西之平野	寺	156	大塚山のガロー	島間大久保	ガロー
112	木カマスガロー	西之本村	ガロー	157	大宇都の牧の神	上中大宇都	牧の神
113	浅香野ガロー	西之本村	ガロー	158	中西・上野の牧の神	上中中西	牧の神
114	中ん崎ガロー	西之本村	ガロー	159	焼野の牧の神	上中焼野	牧の神
115	砂坂ガロー	西之砂坂	ガロー	160	信光寺	上中本町	寺
116	野尻ガロー	西之野尻	ガロー	161	照南寺	上中本町	寺
117	木原ガロー	西之木原	ガロー	162	上中神社	上中河内	神社
118	上小田ガロー	西之中西目	ガロー	163	上野神社	上中上野	神社
119	宮園ガロー	西之中西目	ガロー	164	木田ガロー	上中河内	ガロー
120	下西目ガロー	西之下西目	ガロー	165	寺田孫十ガロー	上中河内	ガロー
121	平田ガロー	西之田代	ガロー	166	ソエガロー	上中河内	ガロー
122	宇都ガロー	西之田代	ガロー	167	カジャの峯ガロー	上中河内	ガロー
123	トノナソノガロー	西之平野	ガロー	168	木場ガロー	上中所在不明	ガロー
124	曾中ガロー	西之平野	ガロー	169	松隅ガロー	上中上野	ガロー
125	西之の牧の神	西之平野	牧の神	170	黒山ガロー	上中	ガロー
126	広浜神社	西海大川	神社	171	中西ガロー	上中中西	ガロー
127	上立石の恵比寿	西海上立石	恵比寿	172	ガローケ峯ガロー	上中平谷	ガロー
128	下立石塩釜神社	西海下立石	神社	173	長木田ガロー	上中中西	ガロー
129	下立石の恵比寿	西海下立石	恵比寿	174	上野ガロー	上中所在不明	ガロー
130	下立石の牧の神	西海下立石	牧の神				



図1 南種子の神社・仏閣・ガロー

写真図版 1



写真 1 広田人と貝装飾展 (人骨)



写真 2 広田人と貝装飾展 (貝製品)



写真 3 ヒロウィン・ナイトミュージアム①



写真 4 ヒロウィン・ナイトミュージアム②



写真 5 ヒロウィン・ナイトミュージアム③



写真 6 ナイトミュージアム屋外人骨模型展示



写真 7 5周年記念の仮装

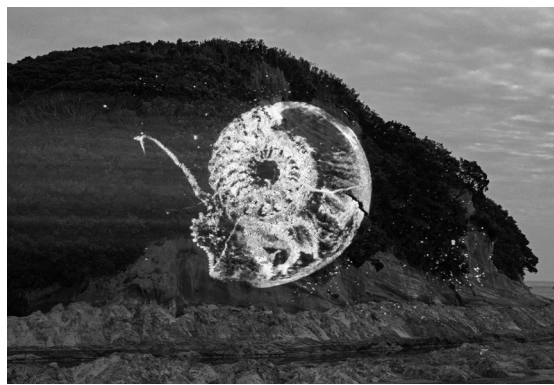


写真 8 aki inomata 作品

写真図版 2



写真 9 重要文化財の運搬風景



写真 10 ジュニア学芸員講座の様子



写真 11 語り部の会による井戸掘り



写真 12 たねがしま古代塾（講師竹中正巳教授）



写真 13 たねがしま古代塾（講師大久保先生）



写真 14 黒潮のおくり物講座（リモート）



写真 15 黒潮のおくり物講座②



写真 16 門松を制作した語り部の会

広田遺跡ミュージアム館報 第5号

発行日 令和3年3月30日

編集・発行

広田遺跡ミュージアム

〒891-3702 鹿児島県熊毛郡南種子町平山 2571

TEL 0997 (24) 4811

印刷所

(株)種子島新生社印刷

〒891-3101 鹿児島県西之表市西之表 16736 番地 1

TEL 0997 (22) 0476

BULLETIN OF HIROTA SITE MUSEUM

Volume 5

March 2021

MINAMITANE TOWN HIROTA SITE MUSEUM